

はじめに

本学は、授業効果の向上を目指し、各授業の意義と位置付けを諸君に明示すべく、授業計画（シラバス）を刊行しています。このシラバスは、それぞれの授業科目がどのような目的で、どのような計画で実施されるかを示し、さらに、薬学教育でどのような位置付けにあるかが理解できるように説明されています。授業内容は薬学教育モデル・コア・カリキュラムと本学独自のアドバンストカリキュラムで決められています。2024年度入学生から薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に沿った新しい薬学教育が実践されます。コアカリキュラムの学修目標と学修事項は巻末に掲載し、アドバンストカリキュラムの学修事項は各科目内に『▶』で示してあります。また、授業についての質問を受け付ける教員の時間帯（オフィスアワー）や成績評価の方法も示してあります。よく読んで各自の学習に、このシラバスを大いに活用されることを期待します。

医学・薬学の進歩に対応して、諸君には薬学の基礎から高度な最先端の専門領域まで幅広い知識・技能・態度の修得が要求されています。本学では、これに対処すべく、1年次(1回生)から最終年次までのカリキュラムにおいて、基礎教育科目と専門教育科目を有機的に関連づけ、効率的で一貫した薬学教育を実施しています。授業科目とディプロマ・ポリシーの関係は、「カリキュラム・マップ」や「ディプロマ・ポリシーと授業科目の対応表」を参考にしてください。

基礎教育科目では、社会人として必要な幅広い教養、医療に関わる研究者、技術者、薬剤師としての倫理観、およびグローバル化と情報社会に対応できる英語力を体得することを期待して種々の授業科目が設けられています。

専門教育科目においては、医薬品の創製、製造、適正使用および公衆衛生に関わる様々な科目が、基礎的な事項から高度な専門的知識までを修得できるように、1回生から6回生にわたって系統的に設けられています。専門教育科目にも多くの選択科目がありますが、各科目では医師・薬剤師も含めた各分野の専門家による講義が行われますので、各自の進級、卒業に必要な単位だけを取得するにとどまらず、積極的にいろいろな講義を受けて自己研鑽に励んでください。3年次後期には、主に病院や薬局での臨床業務（高度医療、地域医療等）、国や地方の薬事および衛生行政の各分野で活躍できる人材を養成する『医療薬学コース』と、主に製薬企業や化学・食品・化粧品企業の研究、生産・技術、学術、営業の各分野で活躍できる人材を養成する『創薬育薬コース』のいずれかのコース履修を選択することになります。また、研究室に配属され、特別実習を通じて各分野の最先端の研究に取り組み、卒業論文を作成します。4年次後期には、CBT（Computer-Based Testing）とOSCE（Objective Structured Clinical Examination）と言われる薬学共用試験を通じて、病院薬局実習を履修するために必要な知識、技能、態度が一定の水準に到達しているかの客観的評価を受け、合格者のみが病院や薬局における薬剤師としての実践的能力を培うための5年次の病院・薬局実習を履修します。

大学の教育では、高校までと違って実験を行う実習科目が多くあります。実習科目は、講義で学んだ知識またはそれを基にした薬学研究に必要な技術や方法を体得するために設けられています。したがって、実習の単位を修得するためには、それぞれの実習の全課程にすべて出席することが原則となっています。また、2回生では有機化学、物理化学および生物化学の基礎的知識を総合的に修得するために、問題演習を主体にしたそれぞれの演習科目が設けられています。これらの演習科目の単位修得も、実習

と同様に、全課程への出席履修が原則となっていますので、必ず出席してください。

「講義・教材についてのアンケート」は学期末の講義終了後などに、また「実習についてのアンケート」は各実習科目終了後に実施して、学生諸君の率直な印象を講義、教材、実習に生かすことを目的として実施します。また、「講義に関するアンケート」は講義期間中に実施し、教員にフィードバックするものです。諸君の意見や要望を取り入れて授業の改善に繋がりますので、ご協力ください。